



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 日本プラスト株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7291 URL https://www.n-plast.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永野 博久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 豊田 剛志 TEL 0544-58-9080  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（動画配信を予定しております）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	47,364	11.6	△1,284	—	△796	—	△1,471	—
2022年3月期第2四半期	42,454	32.8	△234	—	△200	—	△448	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,592百万円 (92.3%) 2022年3月期第2四半期 1,348百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△76.96	—
2022年3月期第2四半期	△23.47	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	82,906	29,879	36.0
2022年3月期	79,536	27,377	34.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 29,879百万円 2022年3月期 27,377百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.00	—	5.00	20.00
2023年3月期	—	5.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	15.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	27.2	900	—	1,100	—	0	—	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2022年11月11日）公表いたしました「2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	19,410,000株	2022年3月期	19,410,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	278,445株	2022年3月期	291,830株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	19,123,853株	2022年3月期2Q	19,119,733株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内外の経済は、世界的な半導体供給不足、原材料価格の高騰、ロシア・ウクライナ情勢及び加速する円安等、激しい外部環境の変動が続いております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、為替影響、日本での新車効果及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだこと等により前年同期比11.6%増の47,364百万円となりましたが、為替影響等を除くと、全セグメントで続く半導体供給不足及び中国での上海ロックダウン影響等による減収を受け、依然として厳しい状況にあります。損益面では、合理化による収益改善及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだものの、減収影響、市況変動に伴う原材料の値上げ、半導体供給不足による直前での大幅減産に伴う生産ロスや北米、中国の賃金上昇を受けた労務費の増加に加え、輸送費や物価の高騰による諸経費の増加等により営業損失は1,284百万円（前年同期は234百万円の営業損失）、経常損失は796百万円（前年同期は200百万円の経常損失）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,471百万円（前年同期は448百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① 日本

国内の売上高は、半導体供給不足の影響はあるものの、新車効果及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだこと等により16,209百万円と前年同期に比べ3,128百万円（23.9%）の増収となりました。セグメント損失は、819百万円（前年同期は1,402百万円のセグメント損失）となりました。市況変動に伴う樹脂やマグネシウム原料の値上げ、輸送費や物価の高騰による諸経費の増加等により赤字となるものの、増収影響、前年度に減損損失を計上したことによる減価償却費の減少及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだこと等により赤字幅縮小となりました。

#### ② 北米

北米の売上高は、為替影響及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだこと等により17,882百万円と前年同期に比べ2,667百万円（17.5%）の増収となりましたが、為替影響等を除くと、前年同期から続く半導体供給不足の影響等により売上は回復せず、依然として厳しい状況にあります。セグメント損失は、1,129百万円（前年同期は195百万円のセグメント損失）となりました。合理化による収益改善及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだものの、市況変動に伴う樹脂やマグネシウム原料の値上げ、半導体供給不足による直前での大幅減産に伴う生産ロスやアメリカでの賃金上昇を受けた労務費の増加、輸送費や物価の高騰による諸経費の増加等により赤字幅拡大となりました。

#### ③ 中国

中国の売上高は、為替影響及び原材料等の高騰について、販売価格への転嫁が一部進んだこと等による増収はあるものの、半導体供給不足に加え、上海ロックダウンの影響等により11,574百万円と前年同期に比べ981百万円（△7.8%）の減収となりました。セグメント利益は、減収影響、市況変動に伴う樹脂やマグネシウム原料の値上げ等により660百万円と前年同期に比べ658百万円（△49.9%）の減益となりました。

#### ④ 東南アジア

東南アジアの売上高は、為替影響等により1,697百万円と前年同期に比べ95百万円（6.0%）の増収となりましたが、為替影響を除くと、半導体供給不足の影響等により売上は回復せず、依然として厳しい状況にあります。セグメント損失は、市況変動に伴う樹脂やマグネシウム原料の値上げ、車種構成差等により58百万円（前年同期は107百万円のセグメント利益）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、82,906百万円となり、前連結会計年度に比べ3,369百万円増加しました。これは有形固定資産の増加3,200百万円が主な要因であります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、53,026百万円となり、前連結会計年度に比べ867百万円増加しました。これは長期借入金の増加1,116百万円及び短期借入金の減少685百万円が主な要因であります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、29,879百万円となり、前連結会計年度に比べ2,501百万円増加しました。これは為替換算調整勘定の増加4,075百万円及び利益剰余金の減少1,568百万円が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期までの業績等を踏まえ、2022年5月12日に公表の業績予想値を修正しております。詳細は、本日別途発表の「2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,310	10,329
受取手形及び売掛金	14,330	15,005
製品	2,503	2,586
仕掛品	1,240	1,357
原材料及び貯蔵品	12,451	12,335
その他	2,527	3,835
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	45,360	45,446
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,182	10,243
機械装置及び運搬具(純額)	9,550	10,834
工具、器具及び備品(純額)	4,845	5,031
土地	3,468	3,588
その他(純額)	3,723	4,273
有形固定資産合計	30,770	33,971
無形固定資産		
特許権	9	—
その他	108	112
無形固定資産合計	117	112
投資その他の資産		
投資有価証券	2,072	2,022
繰延税金資産	286	188
その他	935	1,172
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	3,287	3,375
固定資産合計	34,176	37,459
資産合計	79,536	82,906

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,733	9,506
短期借入金	18,910	18,224
1年内返済予定の長期借入金	3,199	3,558
未払法人税等	342	120
賞与引当金	653	770
役員賞与引当金	—	22
製品保証引当金	1,474	1,390
その他	5,788	5,928
流動負債合計	40,103	39,521
固定負債		
長期借入金	7,095	8,212
繰延税金負債	1,229	1,621
退職給付に係る負債	2,816	2,742
役員株式給付引当金	62	73
製品保証引当金	64	76
その他	787	779
固定負債合計	12,056	13,505
負債合計	52,159	53,026
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,206	3,206
資本剰余金	5,213	5,213
利益剰余金	20,374	18,805
自己株式	△128	△123
株主資本合計	28,665	27,102
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	609	627
為替換算調整勘定	△1,590	2,485
退職給付に係る調整累計額	△307	△336
その他の包括利益累計額合計	△1,287	2,777
純資産合計	27,377	29,879
負債純資産合計	79,536	82,906

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	42,454	47,364
売上原価	39,065	44,777
売上総利益	3,388	2,587
販売費及び一般管理費	3,623	3,872
営業損失(△)	△234	△1,284
営業外収益		
受取利息	64	86
受取配当金	35	43
投資不動産賃貸料	32	32
持分法による投資利益	0	—
為替差益	—	397
補助金収入	83	77
その他	40	79
営業外収益合計	256	717
営業外費用		
支払利息	128	203
持分法による投資損失	—	1
為替差損	12	—
その他	81	24
営業外費用合計	222	229
経常損失(△)	△200	△796
特別損失		
投資有価証券評価損	—	59
特別損失合計	—	59
税金等調整前四半期純損失(△)	△200	△855
法人税等	248	616
四半期純損失(△)	△448	△1,471
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△448	△1,471

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△448	△1,471
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	17
為替換算調整勘定	1,802	4,075
退職給付に係る調整額	10	△28
その他の包括利益合計	1,797	4,064
四半期包括利益	1,348	2,592
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,348	2,592

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	13,080	15,215	12,556	1,602	42,454
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,128	32	1,427	2,569	6,156
計	15,208	15,247	13,983	4,171	48,610
セグメント利益 又はセグメント損失 (△)	△1,402	△195	1,319	107	△172

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△172
セグメント間取引消去	△64
その他の調整	1
四半期連結損益計算書の営業損失 (△)	△234

## II 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	16,209	17,882	11,574	1,697	47,364
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,129	4	949	2,595	6,678
計	19,338	17,886	12,524	4,292	54,042
セグメント利益 又はセグメント損失 (△)	△819	△1,129	660	△58	△1,346

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△1,346
セグメント間取引消去	61
その他の調整	0
四半期連結損益計算書の営業損失 (△)	△1,284